

## 【国際賞】 王文能 氏（前職：台湾工業技術研究院能源資源研究所）

王文能氏は、1974年に文化大学地質学系を卒業後、工業技術研究院鉱業研究所に勤務し、2002年に同研究所能源資源研究所応用地質研究室・室長を経て2006年に退職された。また、1984年には筑波大学環境科学研究科、1993年には東京農工大学農学研究科において留学生生活を経験した。この間、斜面災害の機構解明やその対策を専門に調査研究を進め、2005年には学位論文「地震とその後の降雨により発生する斜面崩壊の特徴に関する研究－1999年台湾集集地震による崩壊を例として－」により、東京農工大学から博士号を取得している。2008年以降は、資源及環境保護服務基金会・董事（理事）として、台湾国内の地すべりや斜面災害に関する委員会の専門委員を務め、現在に至っている。

さて、台湾集集地震（Mw7.6, 1999年）で起きた地すべりによる斜面災害の激甚さは、日本のみならず世界に大きな衝撃を与えた。この地すべり災害に対し、日本地すべり学会は全国治水砂防協会の支援（砂防学会と共同）をうけ、地震が引き起こす地すべり災害の実態を緊急調査するとともに、国内学会誌等においてその実態を報告した。日本では、この災害を契機として、地震地すべりの機構解明のみならずハード対策と警戒避難体制の整備等に知見を蓄えながら、その整備を進めてきている。

王文能氏は、地震地すべりの研究進展の契機となった台湾集集地震による地すべり災害の実態を日本地すべり学会誌に公開したほか、これまで約20年の長きにわたり、窓口として日本からの台湾土砂災害全般に関わる調査派遣団の現地案内を快く引き受けられてきた。また日台合同シンポジウムなどにおいては、自身の経験をもとに地すべりの機構やその災害実態に関する知見を披露されるなど、日本の地すべり分野の調査研究の進展に関わる国際的な功績は極めて大きい。

台湾集集地震以降、王文能氏と日本地すべり学会、斜面防災対策技術協会は、以下のような交流を行ってきた。

①1999年10月には、全国治水砂防協会、日本地すべり学会、砂防学会で構成される台湾集集地震土砂災害現地調査団を台中・南投等の被災地に現地案内し、その後の技術交流会で発表。

②2010年10月には、斜面防災対策技術協会富山支部台湾巡検団を台湾南部の小林村崩壊地へ現地案内。

③2012年1月には、日本地すべり学会中部支部台湾巡検団を九分二山地すべり、草嶺崩壊地、小林村崩壊地へ現地案内するとともに、台湾大学で地すべり専門の台湾技術者と意見交換を行った。

④2016年1月には、日本地すべり学会関東支部シニア会の台湾地すべり巡検団を九分二山地すべり地、草嶺崩壊地、小林村崩壊地へ現地案内。

⑤2018年7月には日本地すべり学会東北支部と栗原市共催の「岩手宮城内陸地震10周年シンポジウム」において、九分二山地すべりについて発表。

また、学会員である個人研究者との交流は、文科省科学研究費（「1999年の台湾の地震に伴って発生した山地災害の調査」、「1999年台湾集集大地震後の土砂災害の推移と地形変化」）による共同研究があげられる。

このように、王文能氏は、日本地すべり学会や斜面防災協会あるいは学会員による台湾での斜面災害に関する調査活動に対して献身的な支援を行うとともに、地震災害の実態を地すべり学会誌で公表するなど、多大な貢献を行ってきた。以上のような理由から日本地すべり学会国際賞を受賞することになった。

推薦者：静岡大学名誉教授 土屋 智

### ● 略 歴 ●

- 1974年 文化大学地質学系 卒業
- 同年 工業技術研究院鉱業研究所 入所
- 1984年 筑波大学環境科学研究科 研究生
- 1993年 東京農工大学 研究員
- 2002年 工業技術研究院能源資源研究所 応用地質研究室 室長
- 2006年 鋒環工程顧問企業有限公司 顧問
- 2008年 資源及環境保護服務基金会 董事（現在に至る）  
東京農工大学博士（農学）

